

◆平成25年度 地域在宅医療連携体制構築事業

桜井保健所管内における在宅医療の推進にかかる地域の課題やニーズを把握し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療を提供するため、多職種協働による在宅医療の支援体制の構築及び充実強化を図るため平成25年度より事業開始した。

1. 聞き取り調査

管内の在宅医療関係者等に対し、取り組みの実際と課題等についての聞き取り調査を実施した。

機関名	実施数	課題
病院	4カ所	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療従事者が、他の職種の役割を知らない。 病院スタッフの入院中から退院を見据えた退院支援が必要である。また、在宅医療や介護保険について知らない。
診療所	4カ所	
歯科医院	1カ所	<ul style="list-style-type: none"> 病院が緊急時入院を受け入れるという後方支援体制が整っていない。 病院から退院される際、診療所医師や訪問看護ステーションへの情報提供が不十分。 24時間対応の診療所が少なく、患者が集中している。 山間部では、開業医が高齢化している。 人々に歯科診療の重要性が理解されていない。 訪問歯科診療を実施している歯科診療所が少ない。 在宅患者訪問、24時間対応、麻薬処方、衛生材料供給する薬局が少ない。
薬局	3カ所	
訪問看護ステーション	4カ所	<ul style="list-style-type: none"> 24時間対応する訪問看護師が不足。 訪問看護が適切な時期に導入されるためには、ケアマネの在宅医療に関する理解の違いによるところが大きい。
地域包括支援センター	2カ所	
行政	1カ所	<ul style="list-style-type: none"> 行政担当者が地域の現状を知らない。 患者及び家族・住民が在宅医療、どこで死にたいかを考えるための情報や知識を得る機会が少ない。 など

2. 地域在宅医療・包括ケア連携ワーキング会議

(1) 目的

桜井保健所管内における在宅医療の推進にかかる地域の課題やニーズを把握し、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療を提供するため、多職種協働による在宅医療の支援体制の構築及び充実強化を図る「桜井保健所地域在宅医療・包括ケア連携会議」の企画等実務的な検討を行う目的でワーキング会議を設置する。

(2) 実施日時・内容

	日時	内容	参加数
第1回目	平成25年8月22日	<ul style="list-style-type: none"> 管内の現状の確認 課題整理 地域在宅医療・包括ケア連携会議の企画検討 関係者への現状調査票の検討 	16人
第2回目	平成25年12月22日	<ul style="list-style-type: none"> 地域在宅医療・包括ケア連携に関する現状調査について 地域在宅医療・包括ケア連携会議の企画検討について 	16人
第3回目	平成26年2月19日	<ul style="list-style-type: none"> 地域在宅医療・包括ケア連携に関する現状調査について 地域在宅医療・包括ケア連携会議の最終確認 	13人

(3) 構成員

地域で在宅医療を実践する専門職・市町村行政職

- 在宅医療に取り組む医師・歯科医師
- 小児・難病・高齢者・精神疾患・感染症等の在宅医療に取り組む訪問看護師
- 病院医師・看護師
- 地域包括支援センター職員
- 薬局薬剤師
- 市町村関係課職員（保健・国民健康保険・介護・障害・児童福祉など）
- 前各号に掲げるもののほか、特に必要があると認める者

○ワーキング委員

(順不同)

	所属	氏名
入院医療機関	済生会中和病院 宇陀市立病院 宇陀市立病院	宮高 和彦 仲川 喜之 竹下 尚美
在宅医	加藤クリニック 植田医院 坂根医院 ちゅうわ往診クリニック	加藤 久和 植田 佳秀 坂根 俊輔 河田 安浩
歯科医	正田歯科医院	正田 晨夫
薬局	ノチオカ薬局	後岡 敬太郎
訪問看護師	樞原訪問看護ステーションやわらぎの郷 ホームナーシングセンター アンフィニ訪問看護ステーション	石原 祐佳 天笠 道代
地域医療連携室	奈良県立医科大学付属病院 済生会中和病院	栗田 麻美 高橋 久子
地域包括支援センター	宇陀市地域包括支援センター 桜井市地域包括支援センターきずな	鴻池 通子 堀 えり子
行政	桜井市健康推進課 宇陀市健康増進課	川口 忠英 林 佳江

○アドバイザー

介護老人保健施設	介護老人保健施設シルバークケアまほろば	籠島 忠
----------	---------------------	------